

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学
所 属 保健医療学部 看護学科
名 前 佐々木博之
作成日 2024年9月30日

1. 教育の責任

本学は医療系の大学であり、多くの学生は卒業後、看護職に就く。私の職位は助教である。学部教育の中では、看護基礎ゼミ(必修)、ナーシングプロセス I (必修)、ナーシングスキル II (必修)、看護基盤実習 I (必修)、看護基盤実習 II (必修)、統合実習(必修)などを担当している。ナーシングスキル II では講義資料の配布や出欠席の確認、講義室の準備などのサポートをしている。また学生の学修進捗をモニタリングし、個別の学習支援やアドバイスを提供している。評価課題やテストを作成の支援や学生の成績を評価している。看護基盤実習 I (必修)、看護基盤実習 II (必修)、統合実習(必修)においては実習の支援をしている。具体的には学生の実習に帯同し、看護における知識や技術の習得を支援や実習記録の指導をしている。そして学生がエビデンスに基づき看護を考え実践し、自身の看護を振替ることができるように支援している。それとともに、臨地実習指導者と協力して学生が実習しやすい環境を整えることもしている。

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私の理念は「対話」である。学生との対話を重視している。そのために以下の 3 点を大切にしている。1 点目は学生とのオープンで双方向の対話である。教育プロセスを共有し共に築いていきたいと考えている。なぜなら教育は教育者と学生がともに築いて質を高めるものだからである。教育者が独断で考えるだけでは学生の利益にならないことがあります。学生の経験や視点を尊重し、精神看護学の学習を主体的に行える環境を提供したい。2 点目は個別の学習ニーズの尊重である。学生は異なるバックグラウンドや学習スタイルを持っている。学生一人ひとりの特性を理解し、個別の学習ニーズに合わせたサポートを提供したい。学生が最良の成果を達成できるように対話をしたい。3 点目は実践的な経験の重要性である。学生には実際の臨床環境での経験を大切に、理論と実践を結びつけるサポートを提供したい。実習を通じて実践的なスキルを磨く機会を提供し、プロの看護師としての自信を築けうように支援したい。そのためには学生の思考プロセスを理化する必要があるため対話を通じて学生の思考を理解し、ここに合わせた支援をしたいと考える。

2) 理念をもつに至った背景

「対話」という理念を大切にしている背景には、私の教育の根底にある価値観や経験が影響している。私の専門領域である精神看護学は、患者との信頼関係やコミュニケーションが重要である。患者の声を聞き、共感し、適切な支援を提供するためには、対話が欠かせない。私はこれを、精神科看護師の重要なスキルとして理解している。また、私自身が学生時代に優れた教

育者との対話に恵まれ、その経験が私の教育のアプローチに影響を与えた。対話を通じて、新たな視点やアイデアが生まれ、知識がより深まる体験をした。教育者の一方的な教示ではなく、対話を通じて気づきを得たり内省をしたりして、学びを深めることができた。そのため、私は学生との対話を奨励し、学習プロセスにおける双方向のコミュニケーションを大切にしている。教育の現場で学生との対話を促進することで、彼らは自分自身を表現し、学問と実践の両方で成長できる環境になると信じている。学生が自信を持ち、倫理的な精神科看護師としての能力を発展させ、患者の生活に良い影響を与えることができるよう、対話を通じて彼らを支援していきたい。

3. 教育の方法・戦略

私は基盤共通看護領域の助教として、学生の成長と専門知識の発展をサポートするために、以下の方針に基づいて教育活動を行っている。1 点目は学生中心のアプローチ:である。学生のニーズと学習スタイルを尊重し、個別指導と対話を重視している。2 点目は実践的な学びの促進:である。精神看護学の特性を踏まえ、実践的なスキルと倫理的な判断力の育成に焦点を当てている。3 点目は継続的な専門成長:である。自己研鑽を通じて最新の情報とベストプラクティスを学び、学生に提供するように心がけている。以下で方針を具体化している方法について述べる。

教授方法においてはアクティブラーニングを活用して学生の積極的な参加を促している。

- ・グループディスカッション: 学生の思考の発散と収束を促し、思考を深めることができる。あわせて多様な意見や価値観に触れることにより、対人関係能力の向上につなげている。
- ・ロールプレイング: 自身の行動の振り返りを行い自己分析に活用している。また患者さん役になることで患者理解にもつながる。
- ・事例ベースの教育: 実際のケーススタディを通じて、問題解決スキルと臨床判断力を養う。抽象的な概念だけでは実践を理解することは困難である。臨床の事例を通じて抽象的な概念を理解する手助けになる。

授業の工夫:

- ・フィードバック重視: 学生に対するフィードバックを提供し、成長の機会を提供している。フィードバックの際は学生のできている部分を承認し自己効力感を高めるように配慮する。加えて発問を交えて学生自身に思考する機会を与え発展的に物事を考えられるように支援する。

授業以外の諸活動

- ・キャリアカウンセリング: チューター活動や授業や実習を通じて、学生と対話し、将来のキ

キャリアに向けた計画を提案している。教員自身の臨床および教育経験を伝え、精神科看護の魅力を語ることにより、学生のキャリアデザインを支援する。

自己研鑽:

- ・学会参加: 精神看護学の最新情報を入手し、学生に最新の知識を講義や実習などで提供している。
- ・継続的な学習: 教育法や技術の進化に適応し、授業内容を最新に保つ。

4. 学習成果

共著の論文を学会誌に投稿中。

5. 改善のための努力

ICTなどを駆使して業務の効率化をすすめる。

6. 今後の目標

短期目標は修士論文の投稿である。2018年に修士課程を修了したが、論文をまだ投稿していない。論文執筆後から年月が経過し過ぎると投稿できなくなるため、2025年度内の投稿を目標としたい。長期目標は研究活動の推進である。今年度教職に就いたばかりのため、学内の業務などを覚えることに精いっぱい状況である。そのため大半の時間を教育活動の業務時間に割いているため研究活動をほとんど進めていない。学内の業務をできるだけ早めに覚えて研究活動に注力したい。

【添付資料】

なし